



福祝



13
2132
29



29
2132
29

枕詞

藏書

宗

廻枕自序


藏書

一々予黄昏乃徒然系
満く小鰯とせし海舟
を立止甲驛子越哉
遊遊哉又新子音機

又と
家、我人此、限里奈し。
妓乃言、羨る。喜樓、此
云よ、く、ま、
里言よ、云、し、
色、男、乃
你、川、の

床乃内ハ、内森の表と
少、母、小、志、者、り、
素、え、
假、よ、婦、
手、か、
昼、乃、小、
行

此書ハ
 井紀ノ
 小巻
 紙屋
 治之
 求ノ
 多々
 家ノ
 床ノ
 内
 乃
 回
 一
 家ノ
 床ノ
 内
 う
 が
 の
 母
 の
 者
 び
 也
 希
 少
 次

山
 手
 山
 人


驛路
 風俗

雙床滿久羅

總目錄

第一

井紀國妓樓宵間世曳

第二

俠夫似家長醉顯生質

第三

久左狂藤伊唄句過意 きうざきやうとうりふらうんてまろん

第四

紙治閨中寶詔離傾情 かみどこのたをーまこととをりん

第五

烏口卧床逢怪婦飛魂 うこうふせやまけこのけいきめとけい



風路廻 ふうろまわ

後続

夫 めうやを 立大力の文句よ曰 たておほいぢのぶんぐよい
 艸の くさの ソ何 なん までも でも あぬ あぬ な な よ よ 曰 い
 物 もの あ あ とい とい 是 こゝろ 坂田 さかた が が 妙 たみ なる なる こと こと
 蓮 あしな 本 もと の の 名 な を を 滑 な ー ー ら ら ぐ ぐ ち ち り り の の
 一 一 ち ち り り の の 名 な を を 滑 な ー ー ら ら ぐ ぐ ち ち り り の の

逢へばあはれなりのもあつてさういふ
二どりの板子あはれども其気乃
そめらののち普界の樂い。行
まじふあちまじふもあつた
久客の樂いもたつてハ勤まら
ぬものぞし。その又色男きど
りよてあつた客人教を知つて
とどく客百人よ間夫をく

夜毎よ習ふ花の教もふく
ふきりきりまじなれども
勤の所よハ仕家のうよと義理
一篇のりもつ。ふあつたあつた
四つよあつた日よハ勤まら
いげくのりもつ。ふあつたあつた
後日よち裕をまじげて拂ひとを
うなまらるる内よハ勤まら



を破る

井紀ノ國屋ノ見世

をやとそぐれ
すさるれ、若イ

まつ... 火と... 火と... 火と... 火と... 火と...
若イ者二人火并か... 火と... 火と... 火と... 火と...
本ハ二十... 火と... 火と... 火と... 火と...
おろんどの... 火と... 火と... 火と... 火と...
小神も... 火と... 火と... 火と... 火と...
しんす... 火と... 火と... 火と... 火と...
若イ者... 火と... 火と... 火と... 火と...
を... 火と... 火と... 火と... 火と...
て... 火と... 火と... 火と... 火と...
を... 火と... 火と... 火と... 火と...
は... 火と... 火と... 火と... 火と...
を... 火と... 火と... 火と... 火と...

の... ま... 火と... 火と... 火と... 火と...
し... ま... 火と... 火と... 火と... 火と...
つ... ま... 火と... 火と... 火と... 火と...
帯... ま... 火と... 火と... 火と... 火と...
う... ま... 火と... 火と... 火と... 火と...
の... ま... 火と... 火と... 火と... 火と...
女... ま... 火と... 火と... 火と... 火と...
と... ま... 火と... 火と... 火と... 火と...
より... ま... 火と... 火と... 火と... 火と...
を... ま... 火と... 火と... 火と... 火と...
よ... ま... 火と... 火と... 火と... 火と...
が... ま... 火と... 火と... 火と... 火と...
白... ま... 火と... 火と... 火と... 火と...
あ... ま... 火と... 火と... 火と... 火と...
よ... ま... 火と... 火と... 火と... 火と...
を... ま... 火と... 火と... 火と... 火と...

小春

のしとどめニつづいむ久ハ丈よ相とすすがぬい
 よしてうらむいあぐあちりめんのうらうけ
 台ちりのちごき同ゆの 花のや
 えず紙をつまよ指そく
 コレくまんとでもりちまうとこ
 まや 子供 アイこ あんざむまの 小ま コレサ
 向のしむし母やの女中がこま
 ちよくとまらせてくらおま
 ノ二階のうらうらとて、遠の
 お。

コレサ まらよこまらていまやヨ
 てしとだまらむらむらあてくら
子供 アイトニ 小ま 一の里よめて、茶やの女を女中
 上る 小ま いらげんや 小ま 小まさん
 君をさん、今夜もいあさる 小ま 小ま
 まいあんー+まらむらむらんの
 とく
 け

での酒さるゝのんじゆめなまはる
うさうさうさうさうさうさうさう
うさうさうさうさうさうさうさう
くろくろくろくろくろくろくろくろく
ゆきゆき 花 さあさあさあさあさあさあ
そいそいそいそいそいそいそいそい
の 深 さあさあさあさあさあさあ
りしりしりしりしりしりしりしりし

くろくろくろくろくろくろくろくろく
うさうさ 花 さあさあさあさあさあさあ
うさうさ 花 さあさあさあさあさあさあ
のんじゆめなまはる 花 さあさあ
かきかき 花 さあさあさあさあさあさあ
けいけい 花 さあさあさあさあさあさあ
が 花 さあさあさあさあさあさあ

あまのつらきいそあはれなること
あまのつらきいそあはれなること
あまのつらきいそあはれなること
あまのつらきいそあはれなること
あまのつらきいそあはれなること
あまのつらきいそあはれなること
あまのつらきいそあはれなること
あまのつらきいそあはれなること
あまのつらきいそあはれなること
あまのつらきいそあはれなること

あまのつらきいそあはれなること
あまのつらきいそあはれなること
あまのつらきいそあはれなること
あまのつらきいそあはれなること
あまのつらきいそあはれなること
あまのつらきいそあはれなること
あまのつらきいそあはれなること
あまのつらきいそあはれなること
あまのつらきいそあはれなること
あまのつらきいそあはれなること

んちあゝおんあせはふる家の
肉のころら場のまじりもらぬと
いししししししししししし
室へ飛ぶも我とならぬと
カアラとらししししししし
白く始の四のそししししし
そ日蓮大がさししししし
敵いぬししししししししし

くくくのきしししししし
花もししししししししし
ぶし其外の者あはるしし
のてししししししししし
ししししししししししし
よしししししししししし
年しししししししししし
化しししししししししし

うらな

○を渡け所よして出りては彼小ま治業
乃何のましくらうくらん
うらうらうらも丁敷も多しあり
由みありもはまもまもまもまも
くまぬ

ちやまの夜のいどうまよせん
あつめうのいどゴゴロ
いどハイおむらぬのいど
あつめうのいどおとがま
いど井戸のいどあつめ
あつめのでるまぬまぬ

ぶあのいどいどいどいど
よヨウリ
のま

いどいどいど

天明九年一月廿五日

宗

古今
奇談 閑栖劇話 五冊
出來

古今
書院中書表 二冊
出來

能登采石人一首 全
出來

神傳佛三教回答 二冊

諸說 俗僻及正錄 五冊
出來

俗字常用集 一冊
近刻

易學子當用考 小本 一冊
近刻

神田絰屋町二百代地
本屋善藏

Handwritten calligraphy in cursive style, including characters like 宗 and 善藏.

